立教大學新聞

発行所
豊島区池袋三丁目
© 立教大学新聞学会
振替東京 70852
電話(97)3121—9内線97
発行人　野口定男
毎月廿日発行

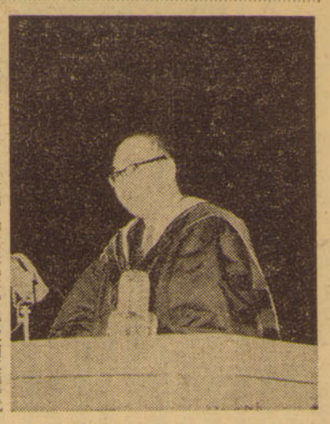
低廉・美味・栄養満点！
パン・和洋菓子
立教食堂
豊島区池袋二の一一〇七
TEL (97) 七四五五

卒業記念号

鷲の目と鷲の爪を持て

——人間的勇気が諸君を導く——

総長　松下正寿



今日、本学を離れ新たな環境に入られる諸君に対し、その門出を祝う言葉を呈したいと思う。従来大学は一般社会から隔離された特殊な社会と考えられ従って学生と社会人は全く別な存在であるかの如く思われていた。そのような考えは今日においては非現実的であり誤っている。大学と一般社会との差は程度の差である。諸君は社会中から既に社会人であったし諸君が大学において学んだことは学問の全部ではなく寧ろその入口である。諸君は社会人として今後一層成長すると共に益々厳しい試練を以て学問の道に進まなくてはならない。併し諸君は今日を境として立教大学という環境を一応離れ新しい環境に入ることは確かである。そして新しい環境に入るということは極めて重要なことである。親愛なる諸君を新しい環境に御送りするに際し私は餞（はなむけ）として新約聖書ヨハネ第一書四章にある「全き愛は恐れ（おそれ）を除く」という言葉を進呈したいと思う。諸君の前途には幾多の不安と困難が待ち構えている。社会情勢の急変に基く不安、諸君に与えられる仕事に自らを適合させる困難、その他不安と困難は数限りなくある。不安や困難はそれ自体それ自体をそむけ、又はそれを軽く見ることによって解消されるものではない。正にその逆である。不安や困難はそれを見まいとすればするほど一層深刻な形で諸君に襲いかかるものである。不安や困難を克服する精神は勇気である。軍国主義時代に最も力説された徳は勇気であった。特に軍隊教育において勇気は何よりも尊重された。軍国主義の失敗と共に勇気もまた軽んじられるようになり勇気を力説すると軍国主義への復帰を企んでいるように誤解されるのである。まことに悲しむべき誤解である。私は東京裁判の弁護人として満州事変前夜から大平洋戦争開始に到るまでの歴史を正視し記録とA級戦犯の証言に基いて調査する機会を持ったのであるが、その結論として私の信じたことは戦争や動乱は勇気の過剰から起きたのではなく、無責任な勢を阻止し、断乎として正しきを行う勇気の欠除から起きるものであるということである。時の勢に追随するのは安易である。勢に抗し、新たな勢を形成するには非常な勇気と英知を必要とする。故に勇気は単なる和の友であり、社会の進歩と人類福祉の源泉である。勇気を持つことは諸君自身にとって必要であるのみでなく諸君の人類に対する義務である。

勇気とは何であるか。諸君は動物が争っているのを見たことがあろう。実に殺気身に迫り、すさまじいものである。人間と動物愛護とかいう立場から見れば許すべからざるものであるが、これに深い関心を持っていることは確かだ。だから人は動物の争い、または動物の争いに類する人間の争いに興味を持っているのである。深刻な争いに人間が興味を持つのはその争いのうちに勇気を感じとるからである。われわれはそれを否定してはいけない。争う動物は勇気を有する。

争う人もまた勇気を有する。しかしてそれが勇気である限り人はそれに敬意を表する。私は争う動物のうちに勇気があるという事実を否定しない。併しその勇気は動物的勇気であって、人間的勇気ではない。私が諸君に御勧めするのは動物的勇気ではなく人間的勇気である。人間的勇気とは何か。英知によって裏打ちされた勇気である。英知とは真実を直視する力である。動物は英知が無いからめくら滅法に争う。生来英知の与えられていない動物においてはそれでいい。幸か不幸か英知の与えられている人間においてはそれは許されない。英知は真実を直視する力であるから英知ある者は世の中には恐怖すべきものが充満していることを知っている。恐怖すべきものがあるに拘らずそれを知らないで突入するのは人間的勇気ではない。否、恐怖すべきものがあり、それを直視しそれに直面するところに人間的勇気がある。

しても足がワナワナ震えるのをどうしたらよいか。鷲の目を以て深淵を見ようとしても目が目らつぶるのをどうしたらよいか。鷲の爪を以て深淵を掴へようとしても爪が無かったらどうしたらよいか。ニーチェは諸君よ鷲の爪を以て深淵を見る人、鷲の爪を以て深淵を掴へる人、かかる人は勇気がある者があるか。鷲の爪があるか。自分は真実に勇気を求めているか勇気がない。如何にして勇気が与えられるか。諸君に進呈したヨハネ第一書第四章一八節はその問に対する回答である。「愛には懼なし。全き愛は懼を除く、懼には苦痛（くるしみ）あれば懼れる者は愛いまだ全からず」。基督教は愛の宗教であるとも言われている。全くその通りである。諸君は社会人として今後一層成長すると共に益々厳しい試練を以て学問の道に進まなくてはならない。併し諸君は今日を境として立教大学という環境を一応離れ新しい環境に入ることは確かである。そして新しい環境に入るということは極めて重要なことである。親愛なる諸君を新しい環境に御送りするに際し私は餞（はなむけ）として新約聖書ヨハネ第一書四章にある「全き愛は懼（おそれ）を除く」という言葉を進呈したいと思う。諸君の前途には幾多の不安と困難が待ち構えている。社会情勢の急変に基く不安、諸君に与えられる仕事に自らを適合させる困難、その他不安と困難は数限りなくある。不安や困難はそれ自体それ自体をそむけ、又はそれを軽く見ることによって解消されるものではない。正にその逆である。不安や困難はそれを見まいとすればするほど一層深刻な形で諸君に襲いかかるものである。不安や困難を克服する精神は勇気である。軍国主義時代に最も力説された徳は勇気であった。特に軍隊教育において勇気は何よりも尊重された。軍国主義の失敗と共に勇気もまた軽んじられるようになり勇気を力説すると軍国主義への復帰を企んでいるように誤解されるのである。まことに悲しむべき誤解である。私は東京裁判の弁護人として満州事変前夜から大平洋戦争開始に到るまでの歴史を正視し記録とA級戦犯の証言に基いて調査する機会を持ったのであるが、その結論として私の信じたことは戦争や動乱は勇気の過剰から起きたのではなく、無責任な勢を阻止し、断乎として正しきを行う勇気の欠除から起きるものであるということである。時の勢に追随するのは安易である。勢に抗し、新たな勢を形成するには非常な勇気と英知を必要とする。故に勇気は単なる和の友であり、社会の進歩と人類福祉の源泉である。勇気を持つことは諸君自身にとって必要であるのみでなく諸君の人類に対する義務である。

間的勇気ではない。私が諸君に御勧めするのは動物的勇気ではなく人間的勇気である。人間的勇気とは何か。英知によって裏打ちされた勇気である。英知とは真実を直視する力である。動物は英知が無いからめくら滅法に争う。生来英知の与えられていない動物においてはそれでいい。幸か不幸か英知の与えられている人間においてはそれは許されない。英知は真実を直視する力であるから英知ある者は世の中には恐怖すべきものが充満していることを知っている。恐怖すべきものがあるに拘らずそれを知らないで突入するのは人間的勇気ではない。否、恐怖すべきものがあり、それを直視しそれに直面するところに人間的勇気がある。

越え難い山もあるし、千尋の渕等を前提とする仏教の滋味や説教の温良恭譲と同じではない。似たところや、共通のところはあるが同一ではない。基督教は敵を愛せよ、と命令された。この言葉は先入観を混えず、言葉通りに受け入れなくてはいけない。基督は敵も味方も同じだから同じように待遇せよとは言はなかった。敵味方の差別は逃いであるから本質的には一切は平等であるとは教えなかった。新約聖書の正しく伝えるところは我々の好むにせよ、好まないにせよ、敵を愛せよ、である。「敵を愛せよ」は敵の実在とそれに対する愛という二つの理念から成立する。敵の実在は現実であり、真実である。

あるが、基督教の愛は無差別平等を前提とする仏教の滋悲や説教の温良恭譲と同じではない。似たところや、共通のところはあるが同一ではない。基督教は敵を愛せよ、と命令された。この言葉は先入観を混えず、言葉通りに受け入れなくてはいけない。基督は敵も味方も同じだから同じように待遇せよとは言はなかった。敵味方の差別は逃いであるから本質的には一切は平等であるとは教えなかった。新約聖書の正しく伝えるところは我々の好むにせよ、好まないにせよ、敵を愛せよ、である。「敵を愛せよ」は敵の実在とそれに対する愛という二つの理念から成立する。敵の実在は現実であり、真実である。

我々は真実をごまかしてはいけない。敵は敵として認識すべきである。これは恐ろしいことだ。我々は心が弱いから敵を認識したくない。敵の実在を逃いとして片すけ、凡てを味方と思いたい。併し敵は実在する。基督教は恐ろしい真実を我々に教えているのである。併しそれだけでは駄目であるが救いがない。我々は敵を敵として愛さなくてはいけない。

基督教という愛を説明するには精々専門的註釈が必要であるから、茲ではその一部として愛を理解し解釈しておこう。新しい環境に進出する諸君には多くの味方もあるであろうが、多くの敵もあるであろう。今日の味方が明日の敵になることもあろう。また敵は必ずしも人には限らない。環境自体が敵であることもある。最も不幸な場合には自分自身が自分に対し敵になることだ。即ち二つの相反する意志が自己のうちで闘争することだ。最愛の者が敵となり、愛と憎しみの深刻な矛盾に悩むこともある。私は決して諸君の不幸を願んでいないが、諸君は幸福を期待すると共に、不幸をも覚悟しなくてはならない。諸君は諸君の前途を甘く見てはならない。諸君は諸君に襲いかかる無数の敵をハッキリ敵と認識する必要がある。敵と認識して理解せよ。逆もまた真である。理解することは認識することだ。敵は敵ではあるが少くとも諸君の理解には価するものである。理解することは愛することであり、換言すれば憎まないことである。全く理解する時全き愛は懼れを除く。諸君を待ち構えている恐るべき深淵に対し、諸君は鷲の爪を以て深淵を掴えなさい。その強い目とその強い爪は愛によって養われる。私は諸君の前途を祝する気持は十分にあるが、それ以上餞別の念に堪えない。「愛には懼なし、全き愛は懼を除く」。私はこの句を御祝いと御別れの言葉として諸君に呈し私の式辞を終る。（卒業式総長講演より）

説論　従来の「甘さ」を捨て　現実を正しく見よう

戦争の被害を蒙った学生諸君の校舎を背に四年間の学窓生活を終えて感慨一入であろう。四年間いや十六年間の過ぎし学校生活を振り返ると共に新しき生活に踏み出さんとする今、感傷的気分に耽る前に改めて考えるべき問題があるように思われる。

「神と国とのために」をモットーとする本学で学んだものは、善の実践即ち行動を通じての学問を学ぶ態度であった。ここではまたパウロの嫉つた偶像を持たない。そして人を支配する人ではなく、人に仕える人となるよう学んだ。大学は学問探求の場であるのは勿論であるが、教壇とノートとの間の妥渉のみで得る学習が総てでもない。教科書以外の我々の身に泌み亘る生活的なものにより大きな比重が掛けられている。僅か四年間で学ぶ学問とは、初歩的であり入門的知識に過ぎない。大切なのは真理探求への扉を開き、正しき道を提示してくれることである。

私達はここで従来の立教人に対していわれて来た種々の批判に耳を傾けたい。本学は元来家庭的雰囲気を長所の一つに持っている。近来とみに学生数の増加に伴ないこの傾向は減少しつつあるが、それでもこの温暖的雰囲気は親しめる友人の獲得に寄与している。このことは同時に温室育ちという結果を生じた。そして私達は自主喪失という言葉を聞き、無気力という言葉も耳にした。自主性に乏しいということは各個人に思想の支柱がないということであり、厳しいいつて思惟し得る対象を把握していないことである。これは同時に批判力の欠除を伴い、既成の思想に引きずられる結果に陥いる。これは温室育ちから来る柔病さはかりともいえないだろうし、立教人はかりともいえまい。しかしどういつた「甘さ」にわれわれは無頓着であつてはならない。

物事に対する積極的な意欲の欠乏か、やかて事物の本質を正しく判断し、健全なる社会の構成員たらんとするとき、その甘さを露呈することは目前の理である。知、愛、善のバッチは単なる飾付けではなかつた。正しい知識に裏付けられた愛、真の神と、何人をも包む豊かな愛と良心を備えた善の象徴であろう。本学では決して宗教は強制されなかつたが、キリスト教精神に基ずく学者に育ちたかった者は、本学に入学したものもその精神を理解したであろうか。批判は若さの特権であり、無関心に素通りしたものが多いのではなかつたか。パートランド・ラッセルのいうごとく私達の前に天国への入口と地獄へ通じる入口があるとしたら、そして天国を選ぶものは勇気と良心と誠に立向う勇気を必要とする。イエスの山上の垂訓に、そしてすべて人に為られんと思うことは人にもまたそのごとく為さいという黄金律に耳を傾けた者があろうか。

かつて笹倉太郎氏カスペインの外交官マドリーガの、考えた後で走り出すフランス人、走つてしまつた後で考えるスペイン人、歩きながら考えるイギリス人の言葉を用い実行と思想の平衡を解呈することは目前に迫っている。ある意味において当然である。勇気は誰でも持たない。誰でもある程度まで勇気を出そうと努力する。誰でも深刻を直視したいと思う。併し何と努力しても限度がある。ニーチェの思想の流れにあつて姿をかえてきた。天災や国家主義思想の興隆による弾圧を蒙り、さらに二つの大戦などの苦難の途をゆみながら、明治七年、チャニング・ムーア・ウイリアムス師により「キリスト者の精神をもつて学問を究め、また全の修めるところの学問をキリストの精神をもつて人間生活の上に実施しようとする教育方針」を掲げて開設された一私塾も、今日では我国において名実ともに一流大学たる地位をかちえた。

しかし今日でこそ社会的に確固たる地位をしめている本学も、開設当時、教師四名、生徒はわずか五名であった。それが現在では教授陣二五二名、学生数七三六九名ことは出来ず、前からきたチャンスを掴めということであろう。何人にも、訪れる機会はある。その時如何に自己のものとするかが大切である。総長のいう人間的勇気がこの時必要となるのである。しかしながら理性を本質とする人間であるにもかかわらず、理性はその必要とする時何の役目も果さない場合がある。その証拠である時は純粋とか素直にと置きかえられるが、身を処していかなければならない。

従来の「甘さ」が「純粋」にと置きかえられた時、私達はこれの成長した姿を改めて見直すことが出来よう。勿論自己の問題に、ある程度の疑いは必要であり、単純になることは、独断的に信ずる習慣を変えるというのではない。それほどと社会は容易に私達を受け入れるとは思はれない。しかし現実を正しく見るということは、それはとりもなおさず未来の目標と方向とを定め、そして未来を予測することに通じるのである。卒業生諸君の御健闘を祈る。

就職　決定者1125名—97.4%

景気回復に予想外の好成績

三十三年度の就職状況は三月十六日現在、人事部の発表によると就職決定者は一、一二五名で希望者一一五二名の九七・四%に達した。決定者の内訳は経一八六八名（九八・七%）、文一八一名（九一%）社一三六名（九四%）、理一二九名（九五%）である。

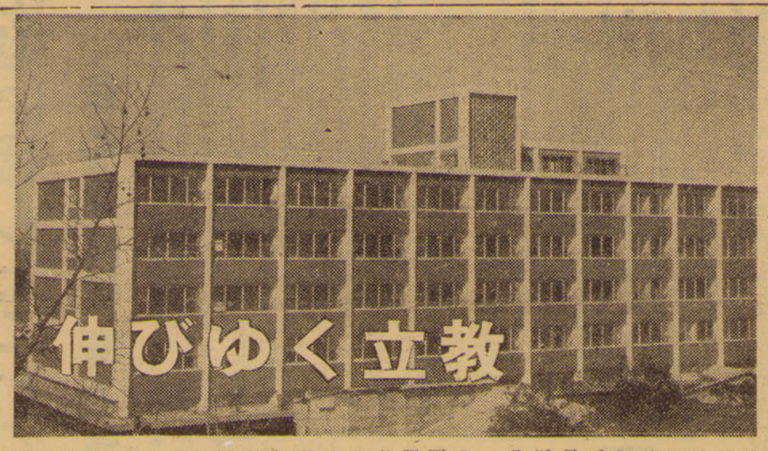
概況　今年度の就職はその当初経済界のナベ底景気の影響をうけ多分に不安な点をもつていたが、その後の経済界の見通しが明るくなり予想外の結果をみせた。これは昨年度も"神武景気"の後退と金融引締めという動向のなかで就職戦"が暗い見通してあつたにもかかわらず予想外の結果をみたのと同じ傾向である。

今年度は求人数も多く、とくに昨年度とくらべて中小企業関係が多い。大企業は求人、決定者とも昨年度と大差ない。しかしこうした中で目立つことは今年度から立教生でなくてはならないという会社もぼつぼつと出てきたことである。

業種別にみると、昨年と大差なく商事貿易、車輌関係、金融部門にあいかわらず多くの決定者をみている。

昭和33年度就職状況
（昭34・3・16現在）

	経	文	社	理		計
鉱山・石炭・石油	11		3			14
電力・ガス	4					4
鉄鋼・非鉄金属	33	2	6			41
諸工業	55	6	17	2	5	80
電機（器）・電線	37	1	3	3		46
計器・光学	19	2	2	3		26
車輌関係	61	2	7	1		71
運輸	33	3	4			40
倉庫	4					4
化学品・薬品	47	4	6	5		62
食料品・皮革	35	5	9	1	1	46
ゴム・繊維	5		2		3	9
紡績	24		1			25
紙パル	12		1			13
新聞・出版・印刷	21	10	9	2		40
建築材	28	1	2			31
銀行・託	60	2	1	1		63
保険	39	1	1	1	1	42
証券	43	1	4			48
商事	195	11	35	10		251
百貨店	12	1	2	4		32
放送	19	6	4		1	30
官庁（公）	8	1			2	11
教職	2	11			3	16
その他	32	9	11	1		53
計	868	82	136	39	10	1125



活気ある拡張計画

戦後、綜合大学実現へ急ピッチ

現代—そこには著しい政治的、社会的変化がある。在来の思想からは新しい思想が生れ、科学の発達は人類をそれ自身が恒久平和か滅亡かの岐路に立たしめている。

これに対する科学兵器やマス・コミュニケーション、そして機械化の発達による人間疎外の増進等々、人々はなんらかの抵抗を示しながらも、その激流にまきこまれている。巨大なしかも性急なこの歴史の流れは社会全体、そして人間のバランスを失わしめているのである。しかし人々はこのような段階にあつて、不安におのいながらも"明日のあることを信じ"現在を如何に生きるかということを考えている。

立教大学も当然このような歴史の流れにあつて姿をかえてきた。天災や国家主義思想の興隆による弾圧を蒙り、さらに二つの大戦などの苦難の途をゆみながら、明治七年、チャニング・ムーア・ウイリアムス師により「キリスト者の精神をもつて学問を究め、また全の修めるところの学問をキリストの精神をもつて人間生活の上に実施しようとする教育方針」を掲げて開設された一私塾も、今日では我国において名実ともに一流大学たる地位をかちえた。

しかし今日でこそ社会的に確固たる地位をしめている本学も、開設当時、教師四名、生徒はわずか五名であった。それが現在では教授陣二五二名、学生数七三六九名となり、その間一万四千余名の卒業生を社会の第一線に送り出してますます立教大学の地盤を堅固に築きつつある。そして今、立教大学が綜合大学としての体制を整えつつあるのを考える時、なによりもその発展に目をみはると同時に、その歴史の歩みを思わずにはいられない。

明治三十三年、立教学院の機構がなり、同四十年英文学科、哲学科、商学科の三科をもつて大学が開校してから今日まで、五十余年の歳月の経過があるが、その間、ことに第二次大戦後の発展は急速であった。昭和二十四年の学制改革により立教大学は新制大学に移行し、文学部、経済学部、理学部の三学部が設置された。そしてそれ以後、昨今の法学部増設まで数多くの施設拡充をみてきたのであるが、それは学院設立初期における苦難とファシズムの中における苦難とを同様の苦難であった。

昭和二十一年に前任の三辺金蔵氏の後を継いで総長に就任した佐々木順三氏は、わが国における聖公会の「教会歴」の唯一の権威者として活躍し、戦後の混乱期における立教学院を再建した。

戦後の混乱した時期の佐々木総長の功績は非常なるものがある。氏は昭和三十年任期満了後「立教はここにようやく基礎ができた。再建という使命を私は全うしたと思う。今後はこの基礎の上に立つて識見豊かな活動力のある人が立教を背負つて立つべきだ。私はこの意味で新しい思想が生れ、人類の不安をよそにますます発達する科学兵器やマス・コミュニケーション、そして機械化の発達等々、人々はなんらかの抵抗を示しながらも、その激流にまきこまれている。巨大なしかも性急なこの歴史の流れは社会全体、そして人間のバランスを失わしめているのである。しかし人々はこのような段階にあつて、不安におのいながらも"明日のあることを信じ"現在を如何に生きるかということを考えている。

立教大学も当然このような歴史の流れにあつて姿をかえてきた。天災や国家主義思想の興隆による弾圧を蒙り、さらに二つの大戦などの苦難の途をゆみながら、明治七年、チャニング・ムーア・ウイリアムス師により「キリスト者の精神をもつて学問を究め、また全の修めるところの学問をキリストの精神をもつて人間生活の上に実施しようとする教育方針」を掲げて開設された一私塾も、今日では我国において名実ともに一流大学たる地位をかちえた。

しかし今日でこそ社会的に確固たる地位をしめている本学も、開設当時、教師四名、生徒はわずか五名であった。それが現在では教授陣二五二名、学生数七三六九名となり、その間一万四千余名の卒業生を社会の第一線に送り出してますます立教大学の地盤を堅固に築きつつある。そして今、立教大学が綜合大学としての体制を整えつつあるのを考える時、なによりもその発展に目をみはると同時に、その歴史の歩みを思わずにはいられない。

明治三十三年、立教学院の機構がなり、同四十年英文学科、哲学科、商学科の三科をもつて大学が開校してから今日まで、五十余年の歳月の経過があるが、その間、ことに第二次大戦後の発展は急速であった。昭和二十四年の学制改革により立教大学は新制大学に移行し、文学部、経済学部、理学部の三学部が設置された。そしてそれ以後、昨今の法学部増設まで数多くの施設拡充をみてきたのであるが、それは学院設立初期における苦難とファシズムの中における苦難とを同様の苦難であった。

昭和二十一年に前任の三辺金蔵氏の後を継いで総長に就任した佐々木順三氏は、わが国における聖公会の「教会歴」の唯一の権威者として活躍し、戦後の混乱期における立教学院を再建した。

戦後の混乱した時期の佐々木総長の功績は非常なるものがある。氏は昭和三十年任期満了後「立教はここにようやく基礎ができた。再建という使命を私は全うしたと思う。今後はこの基礎の上に立つて識見豊かな活動力のある人が立教を背負つて立つべきだ。私はこの意味で新しい思想が生れ、人類の不安をよそにますます発達する科学兵器やマス・コミュニケーション、そして機械化の発達等々、人々はなんらかの抵抗を示しながらも、その激流にまきこまれている。巨大なしかも性急なこの歴史の流れは社会全体、そして人間のバランスを失わしめているのである。しかし人々はこのような段階にあつて、不安におのいながらも"明日のあることを信じ"現在を如何に生きるかということを考えている。

立教大学も当然このような歴史の流れにあつて姿をかえてきた。天災や国家主義思想の興隆による弾圧を蒙り、さらに二つの大戦などの苦難の途をゆみながら、明治七年、チャニング・ムーア・ウイリアムス師により「キリスト者の精神をもつて学問を究め、また全の修めるところの学問をキリストの精神をもつて人間生活の上に実施しようとする教育方針」を掲げて開設された一私塾も、今日では我国において名実ともに一流大学たる地位をかちえた。

しかし今日でこそ社会的に確固たる地位をしめている本学も、開設当時、教師四名、生徒はわずか五名であった。それが現在では教授陣二五二名、学生数七三六九名

卒業こぼれ話

四年間で七十八日？

千人。今年から有名（？）な"青天井"式興が解消された慶応で京都の立命館大学では三五二名が本来なら卒業するはずであるが、このうちなんと三分の一は四年間で約十万円であるが、学校での一時間の授業はピース一箱分ということになる。もっともこの一年生は"富士"に値の完成です。

マ卒業おめでとうございます。懐しの母校を去る別に、寄せに奥んにおいても感ないような話を一、三いたしましょう。マ強の光はいつ聞いても感くないものですが、校歌や寮歌も忘れることはできないでしょう。校歌の作詩は杉浦良一郎氏、作曲は島崎赤太郎氏で寮歌の方は北町作意氏作曲。本学同窓会評議員の武藤重勝氏作詩、前総長をしておられる武藤重勝氏作詩、本学同窓会評議員の北町作意氏作曲。

京都の立命館大学では三五二名が本来なら卒業するはずであるが、このうちなんと三分の一は四年間で約十万円であるが、学校での一時間の授業はピース一箱分ということになる。もっともこの一年生は"富士"に値の完成です。

マ卒業おめでとうございます。懐しの母校を去る別に、寄せに奥んにおいても感ないような話を一、三いたしましょう。マ強の光はいつ聞いても感くないものですが、校歌や寮歌も忘れることはできないでしょう。校父兄合せて一万五千人の大式典を本日行っている。明大は郡体三千分すなわち七十八日六時間人。日大大講堂（日講技場）で十五分ずつあるから一八八二時間〇時間。但し本学の一時間は四十分となる。四年間で勤年を合せ

特集

卒業生の期待と先輩の意見

温床の中での四年間　期待より大きい不安

卒業生

真理の探求は実社会で

卒業生諸君がこの立教に入学したのは満足三十年四月である。それからすでに四年間が過ぎ去り、ここに実社会突入という段階にきたわけであるが、諸君はこの四年間の大学生活をどのように受け止めているのだろうか。ここで改めてその生活をふり返ってみることは、大学を卒業した人間として実社会に生きていくために必要なはずである。いかに無意味に送ってきたと嘆く学生でも大学生であるということに無意識であったとはいえない。なんらかの機会には当然自覚しただろうし、今後はなおさらその自覚心が要求されるのである。大学生であること自体、すでに特権階級のものであるが、社会に出てからは大学卒ということは、より以上に特権階級として受け入れられるのである。しかし、それを活かすか単に甘受しているのみでは、いささか物足りなさが感じられる。自分から積極的に大学で学んだことを役立たせねばならない。大学生活を活かすの同輩はいかに送ったか？ことで他人の意見に耳を傾けることは、自分の認識を一層たしかなものにするのに役立つだろう。

大学における学問がそのまま社会に通用すると考えるのはたしかに早計である。経済学部のA君は次のようにいっている「後輩諸君に立たず"学生時代にもっかり勉強しておけばよかった"と口ぐせのようにいう人がいる。私もあまり勉強したほうではないが、学問の探求の場所であると教えられた大学で、何百人もを一堂に集めた教室で、マイクを通じて受けたものを講義と称し、その結果は試験における暗記の仕方如何によって、優・良・可と評価される。いまの大学では一つでも多くの知識を一時的にしろ頭に入れさえすれば、優等生であり模範生なのである。そして社会においても、この大学の成績で人間を判断するとすれば恐ろしいことだと思う。勉強は卒業で終ったのではなく、これから始まるものだと確信している」このように、いまのマス・プロの典型である大学教育において、単と言いながらも「学生時代には学業も大切だが友を作り、大いに遊ぶ事もそれを充実させるにはなお必要であると思う。友と交り、学んだ数々のことが一番印象に残る良い意味での立教カラーを今後とも失わないようにしたいと言っている。また、バスケットボール部に籍をおいていたC君は「学生である以上勉強も大切だが、部生活において学業のみでは得る事の出来ない人間の調和と忍耐力というものを知る事が出来た。このことは私個人にとって非常にプラスである。学生生活をかえりみた時、有意義に過ごせたという思いで一つはいである。毎日相にまめを作り血を滲ませながら磨かされたボール、駅の階段を這って登る程くたくたにはされた練習、途中で倒れ薄くなる程隠けさせられたマラソン等、歯を食いしばってどうにた苦しみの中に、眩く結ばれた友情の嬉しさは人一倍に感じられた。この精神的に結ばれた深い友情と経験は実社会に出て、大きなプラスとなって実を結ぶ事が出来ると確信している」と言っている。たしかに教室での勉強以外に部での練習や仕事の中で得られた友情や経験は自己をみつめ、自己を修養して行く上に、重要な意義を持っていよう。そして「青年時代にかくも多くの優秀な友人を持ち得たということは、実に素晴らしいことだと思う。「私は学校の成績はあまり良くなかったが授業を通して、又日常の研究生活で、各教授の科学者としての物の考え方や、水い研究生活から滲み出た崇高な雰囲気や人格に接して人間というものを学んだ事がスポーツや山等の体験と相待って私の人格を作る上に重要な役割を果すのではないか」と考えている理学部の学生もい

警職法反対の時には本学からも百五十人も国民行進に参加しました

本学の構内はきれいでした。芝生での語らいも楽しかったでしょう

住み良かった立教　有意義な部生活

ところが、このような在住み心地の良い立教から実社会へ巣立つに当っての心構えはどうであろうか。アメリカに留学し、将来ハイヤー学校当局の方針もこの点にあるのではないだろうか。

未知な世界への不安と抱負

しかし立教は住み良かったと言う人達もいる。経済学部のB君は「住み心地の良さが、社会に出た自己にどう作用するかは疑問だが」と言えている理学部の学生もいる。たしかに、このようなものは学生活においてのみ得られるものである。利己心をおさえ協力し達成された成果に対する共通の喜びを分ち合うことは、集団生活を営む人間にとって最も大切な事柄であろう。この点に関しては、家族的な雰囲気を持ち部活動の盛んな立教においてはぐまれていたといえる。四年間部活動に終始したという女子学生のDさんは「卒業後も街で出合った時、互に立教出身とわかるような雰囲気を持ち続けたい」と言っている。これまでの学生生活において学問はとにかく友情や協力の精神は十分培かわれているようだ。立教は住み良く、良い人柄を作る温床である。

"他人を追い越し上に立て"

決め手は健康と気力

先輩

以上諸君の同輩としての意見を載せてきたのであるが、改めて、大学卒業生としての認識を深めるのには少しは役立ったはずである。しかし、よく言われることだが、実社会の学生々活とは全然異るものだということである。これは、当然感じられる疑問である。大学生活が実社会に何も影響を与えないとは誰も考えないだろう。良い意味で大学生を認識することは大切なことである。ここで、諸君の参考の為に先輩の意見を聞いてみたい。立教を卒業した先輩が口を揃えて言っていることは、立教における人間関係である。生産会社につとめる先輩（昭31・経卒）は「とにかく、立教では人間関係が緊密であった。これは私大特有のものでもあるが、特に立教では顕著である。社会に出ても、同僚の出世を素直に喜び合って、他人学卒業者にみられるような、へんな競争意識がない。この良い点は立教生として社会へ出ても決して忘れないで欲しい」と言っている。また他の先輩は立教で人にサービスする精神が養われたことに非常に感謝している。これは学生々活と同様に、社会でも通用することである。大学生活を実社会に最も近い、ひとつの社会と考える事は必要なことである。中学、高校と違って、一個の社会人として、世間に通用する因である。この点はサークル活動の最も良いところである。サークルにおいて、他人との協調の気持が身に付き、人柄が円満になるのである。単に勉学のみを通じての人間関係は卒業と同時に甚だ力の弱いものとなってしまうのではないだろうか。やはり学生々活の中で、サークル活動の占める位置は大きいのである。前に書いてある様に、ほとんどの卒業生が、一番印象に残ることとしてサークル活動を上げているのは当然である。皆、そこでなにかを掴んだと自覚している。サークル活動で立派にやって来れた人間は既に社会に出るひとつの試験にパスしたといっても良いだろう。

段階に応じた方針を立てる

そこで、諸君は各々この卒業時に当って、自分の方針なり抱負を持っているだろう。残念ながら、充分な生活を送ることら困難なこの時代に大きな望みを持つことは無理な話ではあろうが、我々若い階層が程度の差こそあれ、自分に納得の行く方針を持ち、そこに向って努力することは大きな意味を持つ。単に個人の生活を充実させるばかりではなく、ひいては社会全体の向上に少しばかりでも役立つと言える。冒頭にも述べた様に、社会へ入ることは非常に危険といわねばならない。それは、社会の段階を頭に入れて、そこに応じた目標を立てることが大切である。・会社に入れば個人の利益と会社の利益がしばしば反すると言えるのだが、ここで卒業生諸君に望みたいことは、今迄述べて来た点、人間関係が円滑であり、人にサービスする精神なことは、裏を返せば、常々立教生の欠点と言われている、ファイトが無い、競争意識が無いということに成る。この点は忘れてもらっては困る。何事も、なれあいで済ます立教生の欠点を通りに理解ないことは当然であろう。自己の方針というものは、将来の方針として自分の中に残しておくべきで、組織の中に入れば、一部品にすぎないのだから、すぐに達成しようとしないで、その段階に甘んじて、その会社の種々な事件を自分の生活にまで持って来ると、そこには、若い人間の発展性ある生活は望めない。例えば、会社に入ると自分の意見が正しいと思ったときでも、上役の意見と対立することが多々あろう。そんな場合について二人の先輩（昭18・商卒、昭31・経卒）は各々次の様に言っている「絶対感情的になってはいけない。良く考えて自分の意見が必ず正しいと思ったら、その意見は強く主張してよい。が、経験豊富な上役の意見の方が正しい場合が多いし、上役の意見が会社の方針であるとも云える。しかし、冷静に、また、会社の為を思い誠意を持って主張すれば、妥協点も見つかるし、上役も認めてくれるのではないか」また「会社の組織化の程度によって大分違うだろう。ワンマン的会社ではなかなか困難であるが、ある程度近代化されていると上役との意見の対立などは組織の上で解決することが出来る。例えば、各課の連絡会議などのときに討論することが出来る。聞違いに気付いたら素直に認めることは当然である」とにかく社会人からみると、我々学生の考え方は比較的理想の様なものと思われている。しかし、一歩でも理想に近ずく考え方を各自が抱いていなくては社会を発展させる力がなくなってしまう。潜在力としてもその様な考え方は残されねばならない。そこが若い層の魅力であるはずである。

あまり飲まないで健康の保持を

ここで最後に、諸先輩に社会に出る諸君に対する忠告を聞かせてもらおう。「とにかく、仕事を熱心にすることは、学生時代と同じく社会でも最も重要なことである。生産会社の場合、各種の学卒がいるから、この時点に大学卒という資格だけを意識すると仕事の上で協調出来ない。学校卒を意識して、管理職などだけでは社会を知ることが出来ない。また社会では友人即敵である。競争相手であるから場所、環境に注意しなければいけない。毎日が試験である」（昭31・経卒）「また「出来るだけ早く、商売の知識を身につけること。学校の知識に商売の知識がプラスされてはじめて仕事に能力が発揮される。社会に入ってからは、人間と人間の間であるから、私学特有の見さをもって、第一印象をよくするよう心がけなさい」特に女子学生に対しては女性の先輩（昭31・経卒）がいっている。「特に立教のような先輩の大学にいると、何かにつけて、男子学生に頼り、責任感がうすれている。これは社会に出てから絶対通用しない。大学卒は思い上っていると見られているが、個性的であらねばならない。ソツの無いことは重要であるが、決め手にはならない。社会に出ては精神、出産をあまり態度に表わさない。ほうがよい。この様に、諸先輩は忠告している。会社に入ると同時入社仲間でも一年後にはライバルである。しかし、先輩の話によると、立教生は先輩、後輩のつながりが強いそうである。諸君も今年は就職出来たけれど、来年立教に求人が来るかどうかは、諸君の勤務状態如何である。常に後輩を意識し、学校を意識して欲しい。休憩はライバルが喜ぶといわれる。頭脳以上に身体が大切である。全ての先輩に忠告したことは、この健康であった。

野球の応援も課外活動の一つ？。神宮での応援も印象に残るでしょう。

サークル活動も一つの社会生活。この活動を立派にやり遂げる人を社会は求めている。

意見の相違は組織の上で解決

学生時代と違って、会社にいろ〻な様な自己不位の生活は逃れない。そこで、社会に入った自己の時間と会社の時間とを判きり区別することが肝心である。会社に居るとき、一生懸命仕事をしなければならないことは当然である。このあたりで取り除いて欲しい。

学生時代と違って、会社にいうことに成る。

立教大学診断（完）

就職

高率だが、主流は中小企業へ

大学に学ぶもの、必ず一度はつきあたる"就職"という問題は周知のとおり学生にとって大変な難事である。ここ三年の本学の就職状況（別表）をみてもわかるとおり、ほぼ百パーセントに近い数字が示されている。官公立は別として私大の中ではまず上の部であることは確かだ。さて客観的にこの高率就職を解剖してみると、第一には、他のマンモス私大に比べて学生数が少なく、しかもそのうち二割かに二割が自家営業に就くので、実質上の求職人口はさらに少いこと、第二に比較的上層の子弟が多く、そのためにあらゆる意味で有利であること、などの点があげられよう。「立教の社会的名声」とか「学生の資質」あるいは「立教の教育学問」などという最も評価されるべき"大学の生命"ともいえるポイントが大学と社会がつながる就職という重要な機会に最も関連とされるわけだ。

本学の売れ行き先はどんなものか、ここ数年、一般的傾向としては大手のいわゆる"一流会社"が二割から三割、あとの七、八割はいわゆる"中小企業"である。

「職に貴賤はない」といわれるが「よりは大物の蔭」とばかり大企業へ、一流どころへと殺到するのが、人の常、一応一流どころへとの程度入り込めるかが世間では問題とされる。だから、立教の場合は、この点からすれば未だしの感はまぬかれない。"大手筋"へ就職する二、三割の学生といっても、その内訳は、スポーツの有力選手はそれだけで特権的に入社しているし、また有力なコネを持つ者は、その威力フルに発揮してもぐりこむのだから、実質的に実力だけで入社する学生はもっとひいのである。結局、大学数は中小企業へ流れる。経済学部のA君は昨年十月の上旬に大電気メーカーと銀行を学校推薦で受験した。二つともかなり難しい筆記試験をパスして、面接にのそんだが、二つとも駄目。

「就職価」が、希望に浸透していなくて、レベルが引っぱりダコであることは立教の場合でも変らず。すでに十月中旬二つの会社に合格して据膳を食っていた学生もかなくたい。しかし、一方に未だ四苦八苦して学生層の選考が厳しくなっ

立教生の地盤は

大分悲観的な材料が並んでしまったが、ここで立教が進出している地盤を見てみよう。立教の学生が歓迎される部面もあるのだ。質、量ともにまず立教の世間といえるところは銀行、証券、車輌部門と、いうところだろう。東京トヨペット上には毎年大量に送り込んでいる。三一年度は一名、三二年度は一六名、今年度は一四名となっており、その他の車輌関係にも進出している。銀行関係では勧銀、富士、三菱、第一、をはじめ地方銀行にコンスタントに送り込んでいる。銀行関係の実績が認められているためか、ここ三年の本学の就職状況（別表）をみてもわかるとおり、ほぼ百パーセントに近い数字が示されている。官公立は別として私大の中ではまず上の部であることは確かだ。さて客観的にこの高率就職を解剖してみると、第一には、他のマンモス私大に比べて学生数が少なく、しかもそのうち二割かに二割が自家営業に就くので、実質上の求職人口はさらに少いこと、第二に比較的上層の子弟が多く、そのためにあらゆる意味で有利であること、などの点があげられよう。「立教の社会的名声」とか「学生の資質」あるいは「立教の教育学問」などという最も評価されるべき"大学の生命"ともいえるポイントが大学と社会がつながる就職という重要

低調な女子就職

ところで、学部別に見ると各学部とも一応としては良好だが、何といっても大学卒業生の就職という重要な機会に最も関連とされるわけだ。

本学の売れ行き先はどんなものか、ここ数年、一般的傾向としては大手のいわゆる"一流会社"が二割から三割、あとの七、八割はいわゆる"中小企業"である。

「職に貴賤はない」といわれるが「よりは大物の蔭」とばかり大企業へ、一流どころへと殺到するのが、人の常、一応一流どころへとの程度入り込めるかが世間では問題とされる。だから、立教の場合は、この点からすれば未だしの感はまぬかれない。"大手筋"へ就職する二、三割の学生といっても、その内訳は、スポーツの有力選手はそれだけで特権的に入社しているし、また有力なコネを持つ者は、その威力フルに発揮してもぐりこむのだから、実質的に実力だけで入社する学生はもっとひいのである。結局、大学数は中小企業へ流れる。経済学部のA君は昨年十月の上旬に大電気メーカーと銀行を学校推薦で受験した。二つともかなり難しい筆記試験をパスして、面接にのそんだが、二つとも駄目。

「就職価」が、希望に浸透していなくて、レベルが引っぱりダコであることは立教の場合でも変らず。すでに十月中旬二つの会社に合格して据膳を食っていた学生もかなくたい。しかし、一方に未だ四苦八苦して学生層の選考が厳しくなっ

就職状況推移

	経	文	理	計	
30年度	665	171	25	861	31.4. 現在
31年度	713	180	20	912	32.3.19現在
32年度	812	190	27	1,092	33.3.14現在
33年度	868	文 82 社 136	39	1,125	34.3.16現在

（同年九月五日付本紙二二〇号・最外）

祝御卒業
御洋服ノ調整ノ節ハ
ヨロシクオ願イ致シマス！
恩田洋服店
池袋2の910（トキワ通り）
TEL(97)5133～5134

新鮮な果物と喫茶
丸ビル千疋屋
MARUBIRU SEMBIKIYA
丸ビル一階
TEL(20)3758 0650

製法特許のインキと特殊構造のピンとで最高の書き味がたのしめる！
新装 丸善ワンダーインキ
黒・赤・橙・黄・緑・青・黒・茶　1本…50円・8色セット…400円　有名文具店にあり

名曲喫茶のNO1
ポピュラー喫茶NO1マイアミ
新宿駅中央口前武蔵野通り (37)九五七〇 四九八二
クラシック モダン 古典と現代を綾なす
最高の建築デザイン
シネラマ音響
立体テープ演奏
新宿 名曲・珈琲 上高地
新宿歌舞伎町コマ通り (368)5315 5316

アサノセメント
日本セメント株式会社
東京都千代田区大手町1の4（大手町ビル六階）

玉塚の投資信託
それは一口五千円
有利な株式投資を
手軽に楽しむ
新しい時代の利殖法
玉塚證券
本店 東京日本橋江戸橋
大森・池袋・新宿・銀座・堀町

東宝
偉大な発明家を誘拐し、世界征服を狙う海賊潜水艦！奇想天外の新型式映画！
ブラッセル映画祭グランプリ受賞　文部省選定
悪魔の発明
4月中旬 ニュー東宝

オーケストラと珈琲
世界で初めて企画された古典音楽喫茶！
オーケストラタイムコーヒー ¥100
サービスタイム（土・日・祭 2:00まで 4:00まで）コーヒー¥60
コンサートホール
新宿歌舞伎町 地球会館2・3階 TEL(37)9292